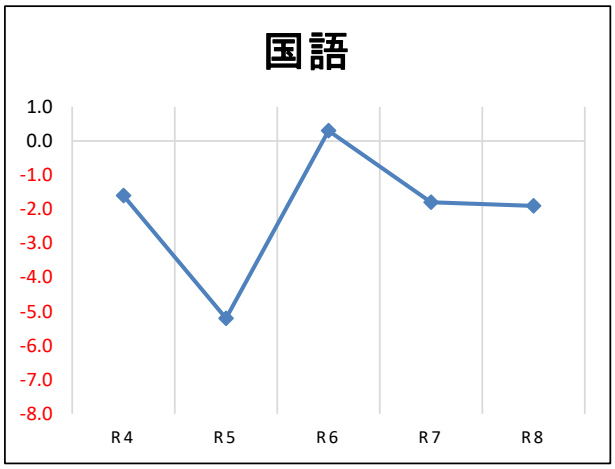
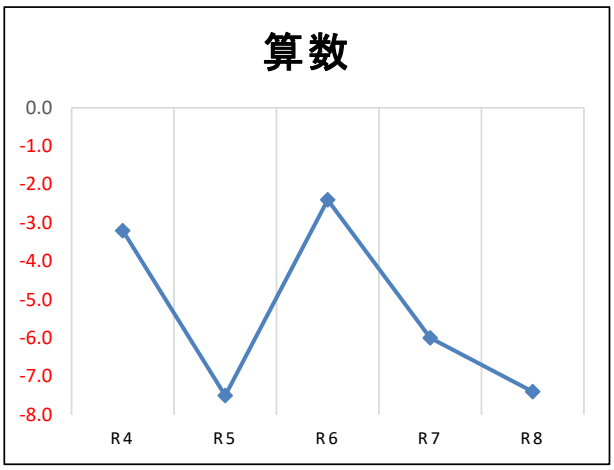
教科に関する調査（６年生　国語・算数：89名）

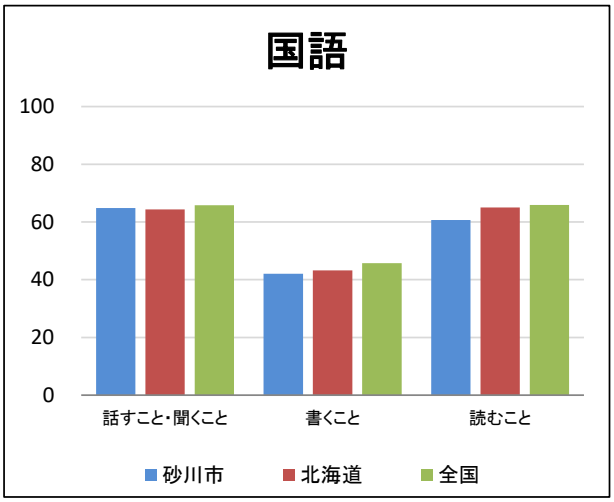
１　平均正答率（全体）の経年推移

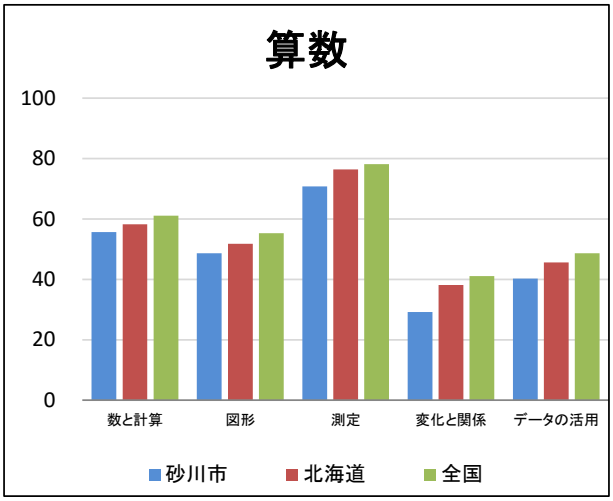
※全国の平均正答率との差





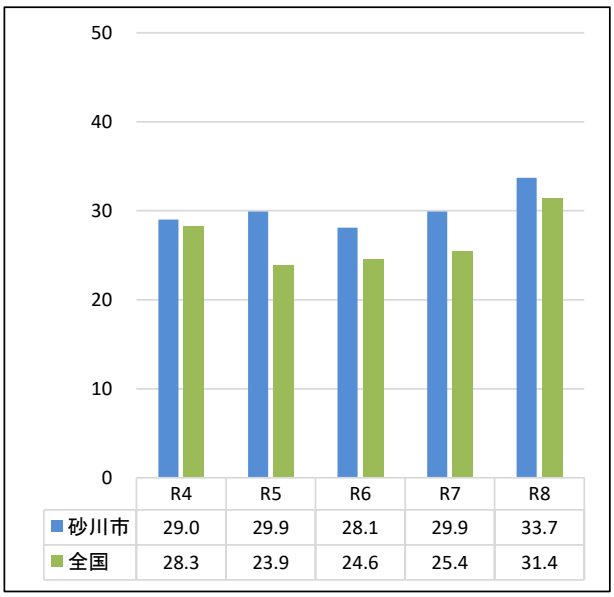
２　領域別平均正答率の状況





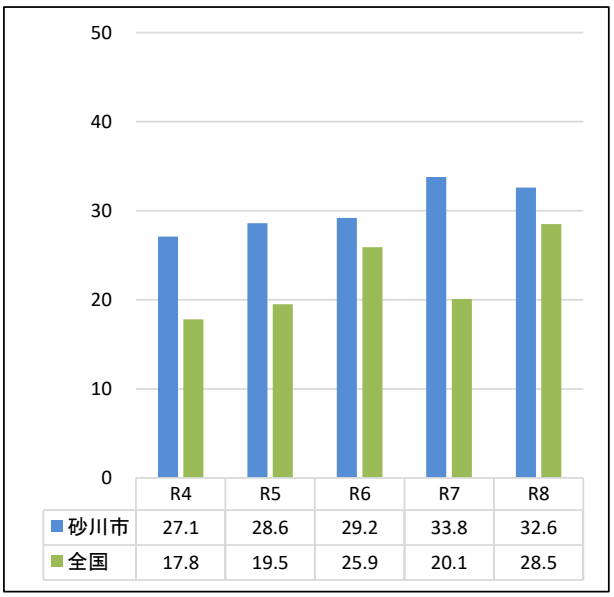
３　全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合（努力を要する児童の割合）

国語



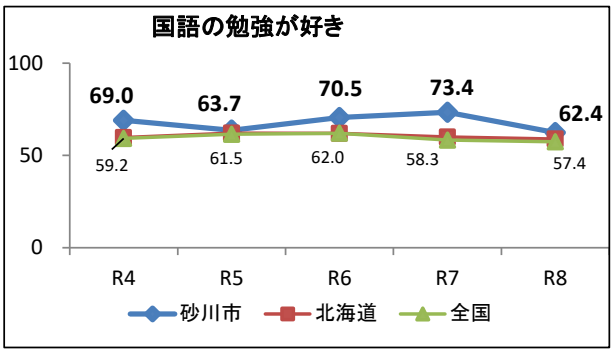
	R4	R5	R6	R7	R8
砂川市	29.0	29.9	28.1	29.9	33.7
全国	28.3	23.9	24.6	25.4	31.4

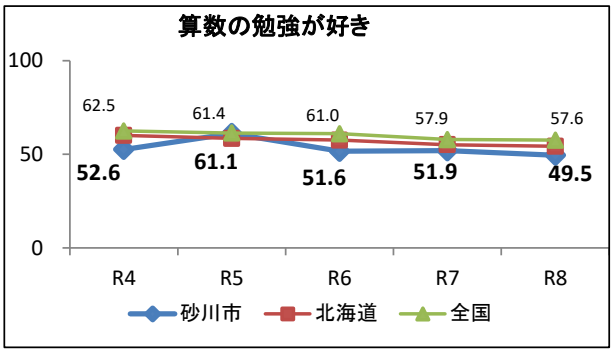
算数

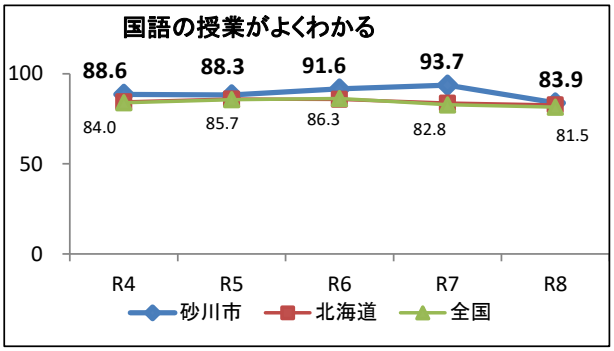


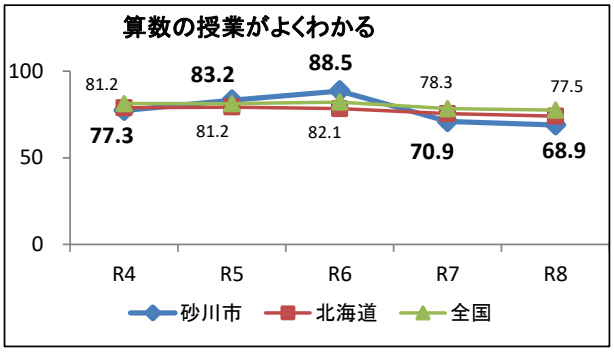
	R4	R5	R6	R7	R8
砂川市	27.1	28.6	29.2	33.8	32.6
全国	17.8	19.5	25.9	20.1	28.5

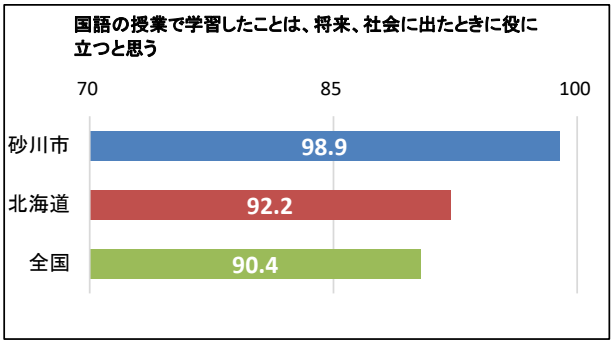
4　授業に関する意識（質問紙調査より）　※北海道の結果については、折れ線グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

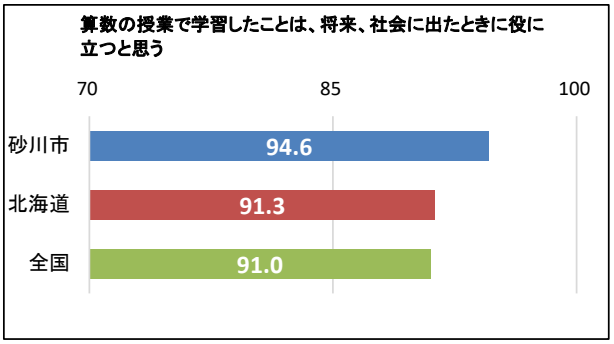












5　分析

○　平均正答率については、国語は全国平均をやや下回り、算数は下回った。

○　領域別の平均正答率については、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」は全国平均をやや下回り、「読むこと」は全国平均を下回った。算数は全ての領域で全国平均を下回った。

○　全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童（努力を要する児童）の割合は、国語、算数ともに全国平均をやや上回った。

○　国語の勉強が「好き」という割合は全国平均を上回ったものの、算数については全国平均を下回った。

○　国語の授業が「よくわかる」という割合は全国平均をやや上回ったものの、算数の授業が「よくわかる」という割合は全国平均を下回った。

○　「学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と思っている割合は、国語は全国平均を上回り、算数は全国平均をやや上回った。

6　授業改善の視点

○　砂川市学習スタンダードを踏まえた指導過程による授業改善の推進。

○　児童が課題解決への見通しをもち、授業の終末において「わかった」「できた」という実感を得られる授業づくりの推進。

○　児童が思考したり、話し合ったり、交流したりする場面を意図的・計画的に取り入れるとともに、学習をふり返る時間を十分に確保（教師による端的で明確な説明・指示、児童の思考を深める発問の工夫、「協働的な学び」の充実）。

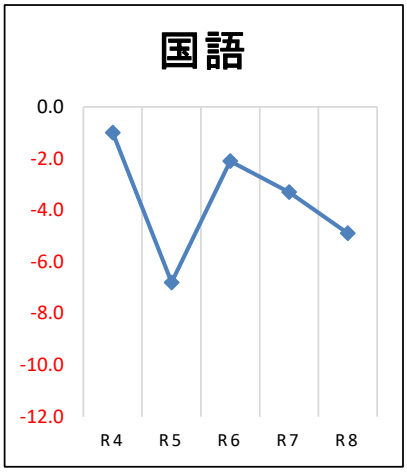
○　文章、図、表、グラフなど、複数の資料から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして、わかったことや自分の考えを言葉や文で表現する力の育成。

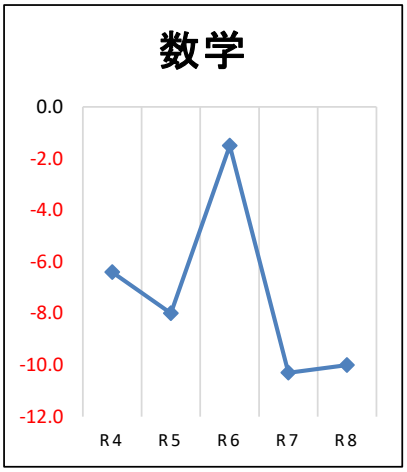
○　タブレット端末などのICT機器を効果的に活用した、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導の充実（「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実）。

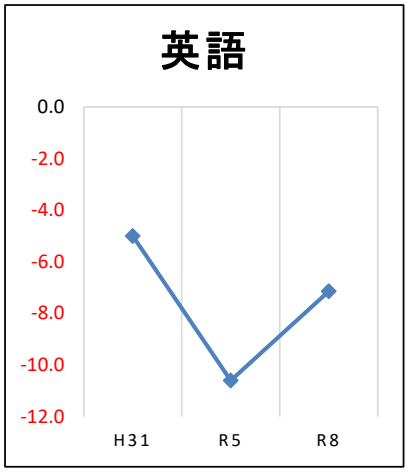
教科に関する調査（９年生　国語・数学：74名　英語（４技能）：67名）

１　平均正答率（全体）の経年推移

※全国の平均正答率との差
※英語のR8平均正答率は、公開問題のうち、全員に共通して出題される9問の集計値

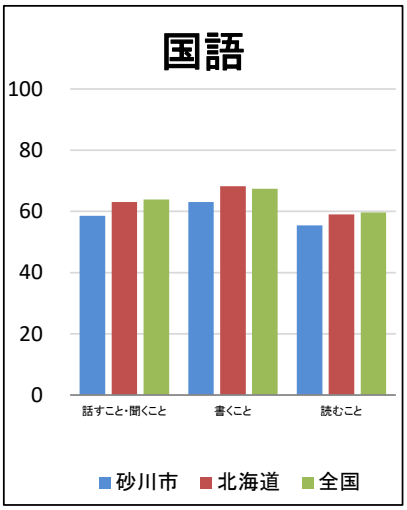


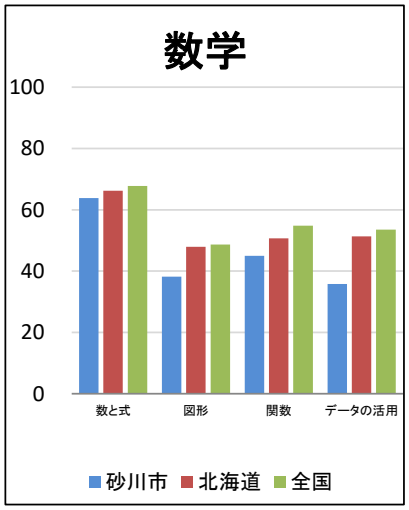


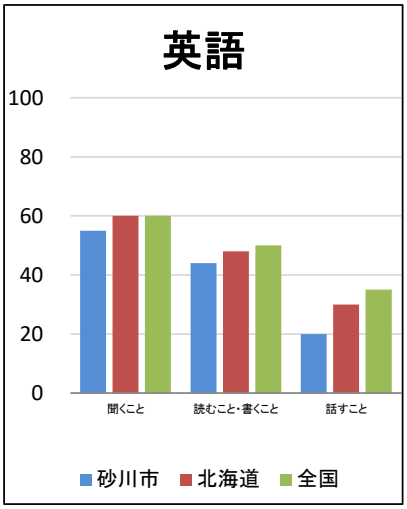


※H31、R5は「話すこと」を除く3技能の平均正答率

２　領域別平均正答率の状況



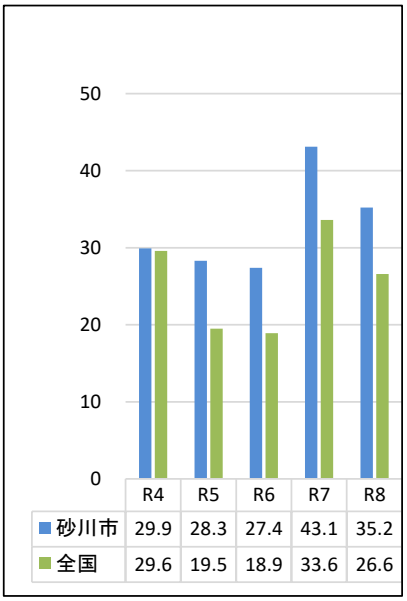




３　全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合（努力を要する生徒の割合）

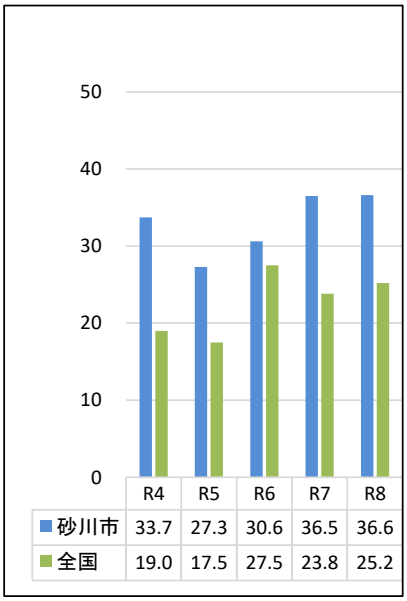
※R8はIRTバンド3未満の生徒の割合
※H31、R5は「話すこと」を除く3領域の集計値

国語



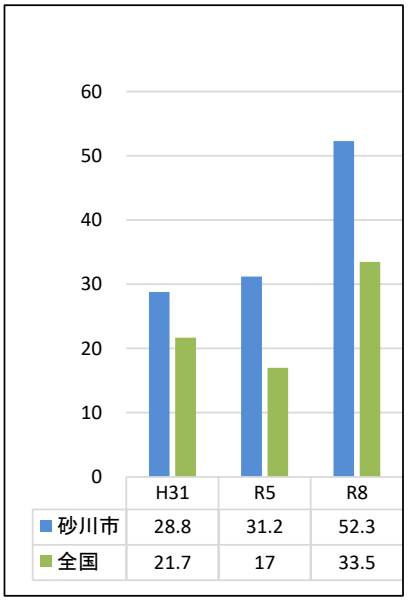
	R4	R5	R6	R7	R8
砂川市	29.9	28.3	27.4	43.1	35.2
全国	29.6	19.5	18.9	33.6	26.6

数学



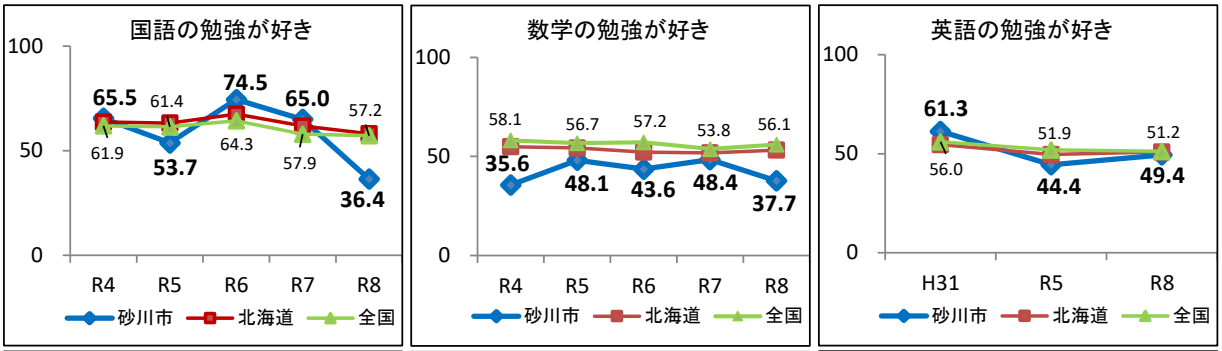
	R4	R5	R6	R7	R8
砂川市	33.7	27.3	30.6	36.5	36.6
全国	19.0	17.5	27.5	23.8	25.2

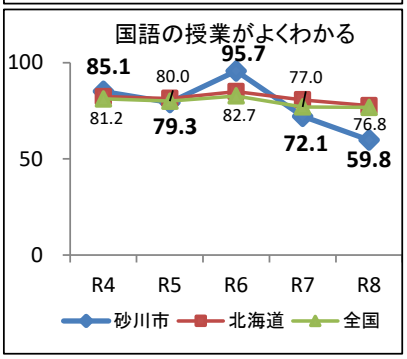
英語

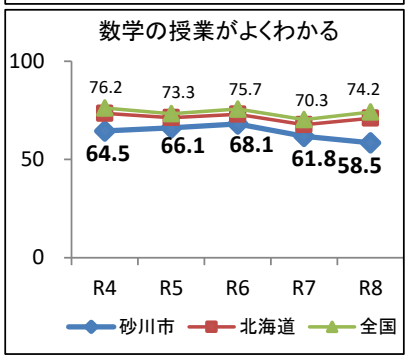


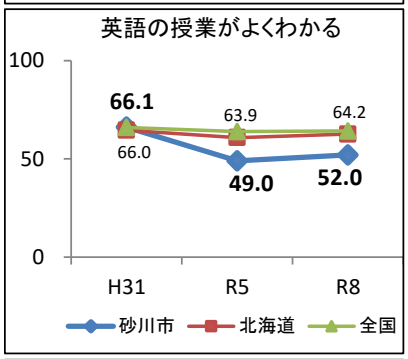
	H31	R5	R8
砂川市	28.8	31.2	52.3
全国	21.7	17	33.5

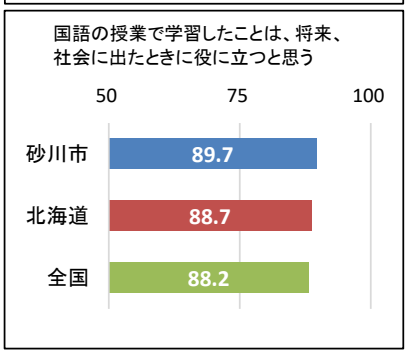
4　授業に関する意識（質問紙調査より）　※北海道の結果については、折れ線グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

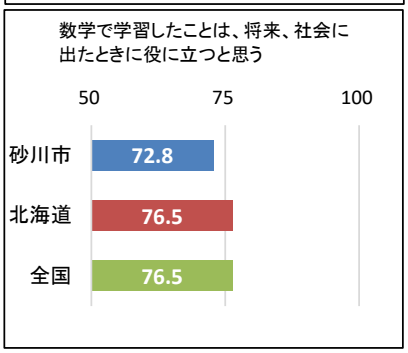


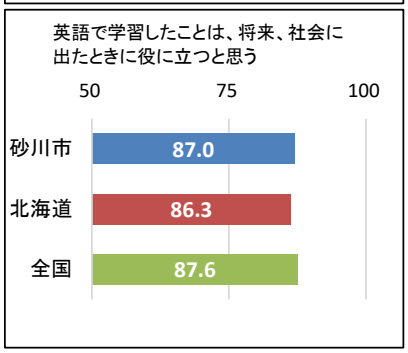












5　分析

- ○　平均正答率については、国語は全国平均をやや下回り、数学及び英語は下回った。
- ○　領域別の平均正答率については、国語の「話すこと・聞くこと」は全国平均を下回り、「書くこと」「読むこと」は全国平均をやや下回った。数学の「数と式」は全国平均をやや下回り、「図形」「関数」「データの活用」は全国平均を下回った。特に「データの活用」は全国平均との差が大きくなっている。英語は、全ての領域で全国平均を下回った。
- ○　全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒（努力を要する生徒）の割合は、すべての教科で全国平均を上回った（英語はIRTバンド3未満の生徒の割合）。
- ○　国語の勉強が「好き」という割合は全国平均を下回り、数学についても全国平均を下回った。英語は全国平均をやや下回った。
- ○　「授業がよくわかる」という割合は、すべての教科において全国平均を下回った。
- ○　「学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と思っている割合は、国語については全国平均をやや上回り、数学については全国平均をやや下回り、英語については全国平均と同程度であった。

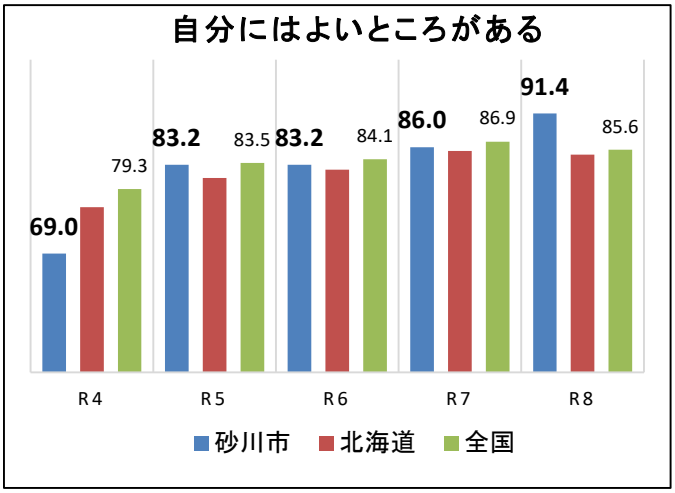
6　授業改善の視点

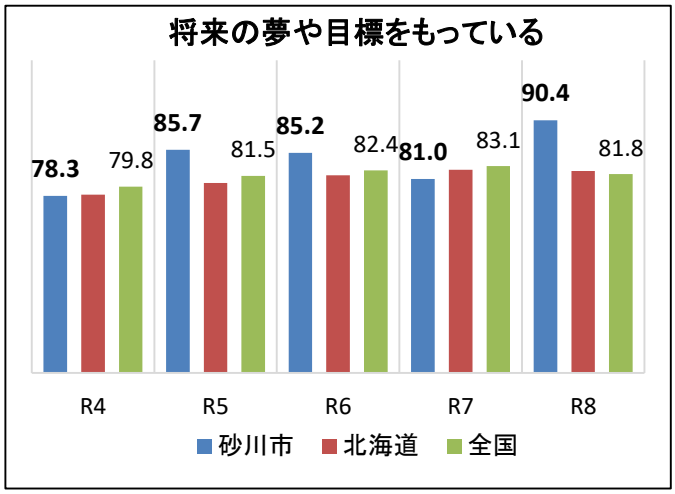
- ○　砂川市学習スタンダードを踏まえた指導過程による授業改善の推進（課題把握、見通し、自力解決、交流、まとめ、ふり返り）。
- ○　生徒が思考したり、話し合ったり、交流したりする場面を意図的・計画的に取り入れるとともに、学習をふり返る時間を十分に確保（教師による端的で明確な説明・指示、生徒の思考を深める発問の工夫、「協働的な学び」の充実）。
- ○　生徒に課題解決への見通しをもたせ、授業の終末において課題を解決できたという実感を得られる授業づくりの推進（「わかる・できる授業」の構築）。
- ○　文章、図、表、グラフなどの複数の資料から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして、自分の考えを「表現する」ことを重視した学習指導の充実（書く、説明する、思考ツールを用いて表すなど）。
- ○　数学において、データの傾向を読み取り、根拠を基に判断したことを数学的に説明する活動の充実。
- ○　英語において、聞いたり読んだりして得た情報を整理し、その内容を踏まえて自分の考えや気持ちを表現する言語活動の充実。
- ○　学習内容を日常生活や社会の事象と関連付け、その有用性や学ぶ意義を生徒が実感できる授業の実践。
- ○　ICT機器を効果的に活用した、生徒一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導の充実（「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実）。

児童質問調査（６年生　93名）

※北海道の結果については、グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

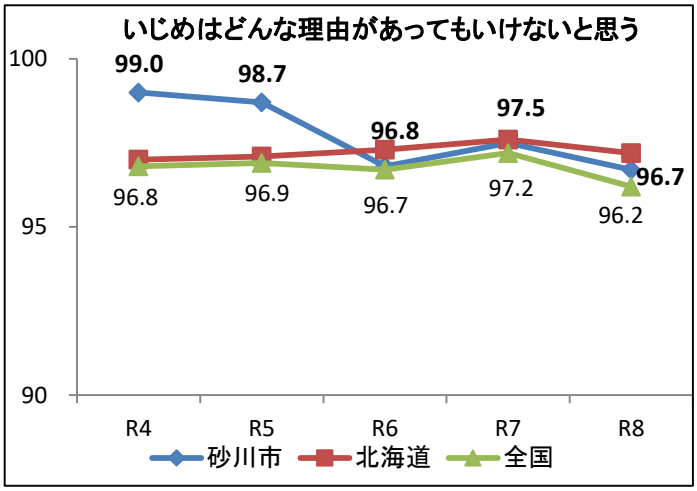
1　自尊感情に関する児童の状況

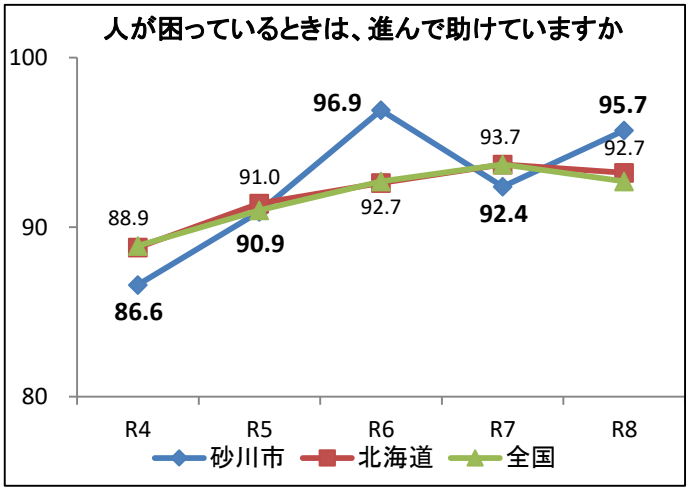




「自分にはよいところがある」と回答している児童の割合は昨年度を上回るとともに、全国平均を上回った。引き続き、異学年を含む多様な他者との関わりや体験的な活動を通して、児童が自分のよさに気付き、自信をもつことができる教育活動を充実させていくことが大切である。
「将来の夢や目標をもっている」と回答している児童の割合は昨年度及び全国平均を上回った。キャリア・パスポートの活用や地域人材との関わりを通して、児童が自分の成長を振り返り、将来の生き方について考えるキャリア教育を引き続き推進することが重要である。

2　規範意識に関する児童の状況

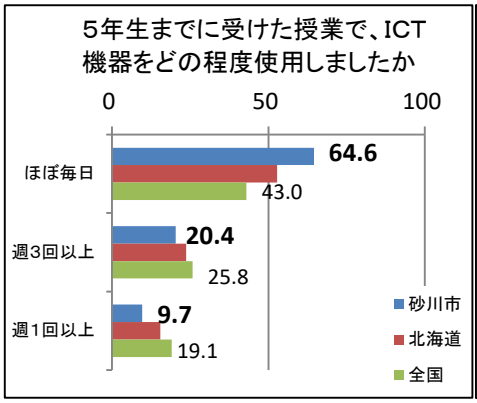


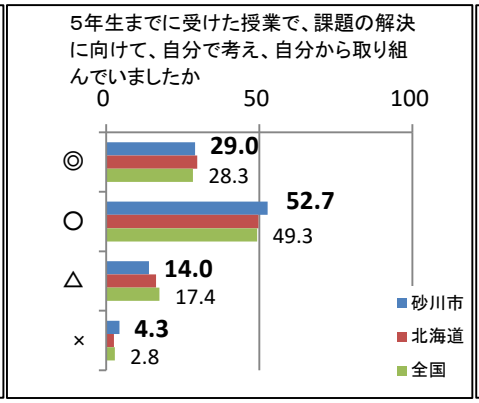


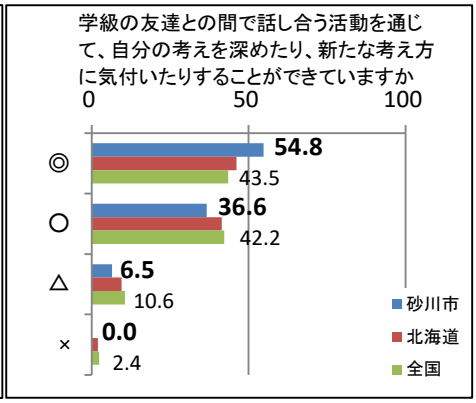
「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」と回答している児童の割合は引き続き高い水準にある。今後も、いじめはどのような理由があっても許されない行為であることを、道徳科をはじめとする教育活動全体を通して繰り返し指導し、互いのよさや違いを認め合える集団づくりを進めることが大切である。
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答している児童の割合は、昨年度及び全国平均を上回った。引き続き、多様な他者との関わりや体験的な活動を通して、相手の立場を考え、互いに助け合い、支え合って行動する態度を育成することが重要である。

3 学習に関する児童の状況

（1） ICT機器の活用と主体的、対話的で深い学びの実現

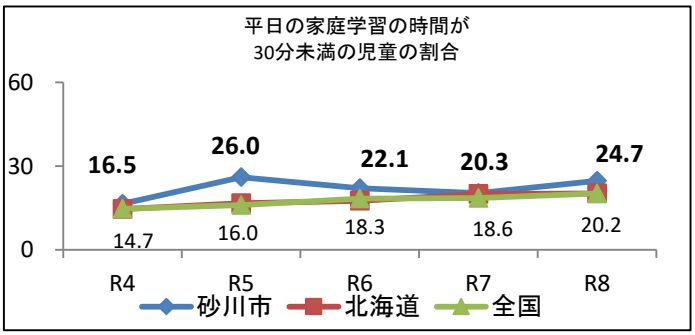


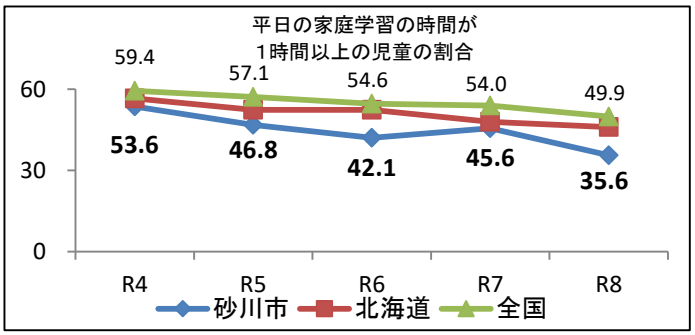


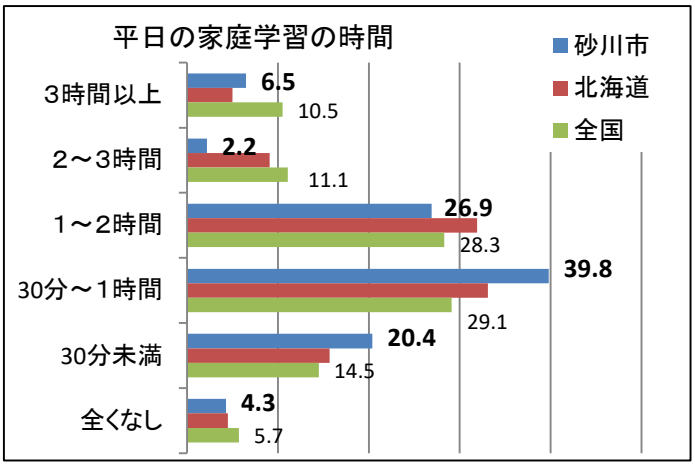


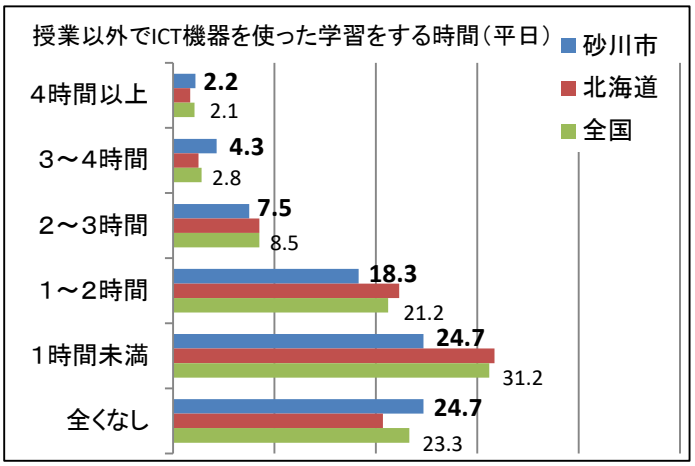
「ICT機器をほぼ毎日活用している」と回答している児童の割合は、全国平均を大きく上回っており、各教科等において日常的な端末活用が進んでいることがうかがえる。今後は、活用頻度に加えて、情報の収集・整理・比較や考えの共有、個々の学習状況に応じた学びなど、学習の質を高めるための効果的な活用を一層推進する必要がある。
「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答している児童の割合は、全国平均をやや上回った。児童が課題解決の見通しをもち、自ら学習方法を選択・調整しながら粘り強く取り組むことができるよう、個人思考の場面や学習を振り返る時間を十分に確保する必要がある。
「話し合い活動を通して自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答している児童の割合は、全国平均を上回った。引き続き、協働的に学び合う場面を意図的・計画的に設定するとともに、対話を通して自分の考えを広げたり深めたりする授業づくりを進めることが重要である。

（2） 家庭での学習状況







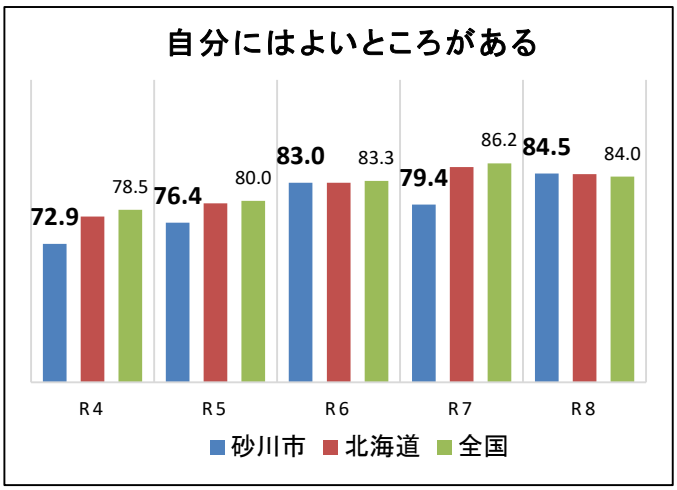


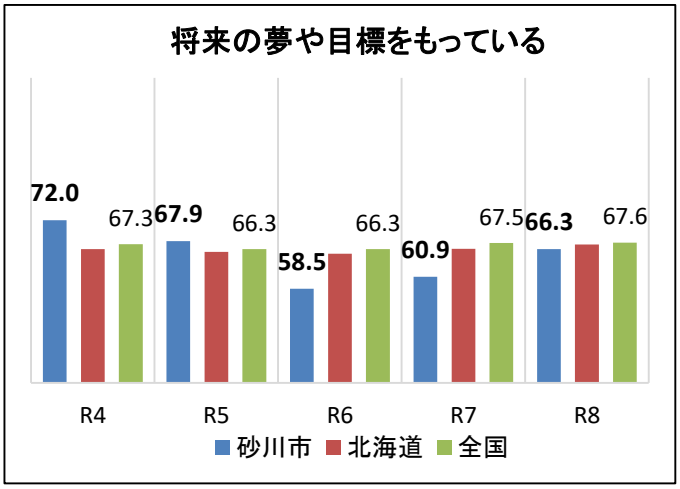
平日の家庭学習時間が30分未満の児童の割合は、昨年度より増加し、全国平均を上回った。一方、1時間以上学習している児童の割合は、昨年度より減少し、全国平均を下回った。時間別では「30分～1時間未満」の割合が最も高いことから、家庭で学習に取り組む時間の確保が課題である。学校と家庭が連携し、生活時間を見直すとともに、児童が自ら目標や学習内容を設定して、計画的に家庭学習に取り組む習慣の定着を図る必要がある。
授業以外でICT機器を使って学習する時間については、「1時間未満」と回答した児童の割合が最も高く、「全くなし」の割合は全国平均を上回った。端末の持ち帰りやAIドリル等の学習アプリの活用を計画的に進め、児童一人一人の理解度や課題に応じた家庭学習につなげる必要がある。

生徒質問調査（９年生　77名）

※北海道の結果については、グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

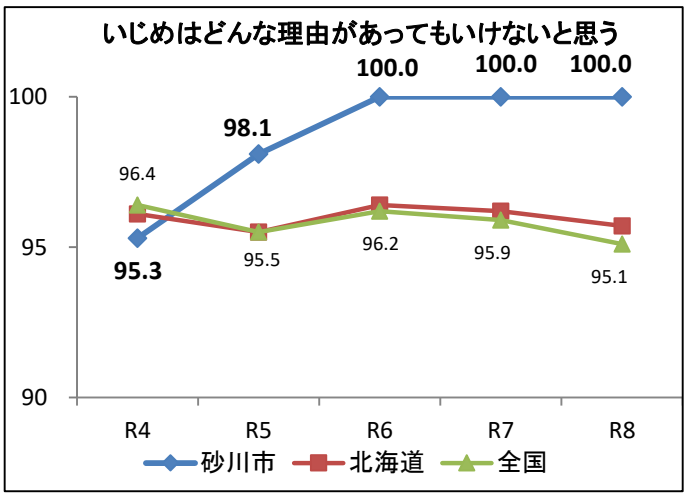
１　自尊感情に関する生徒の状況

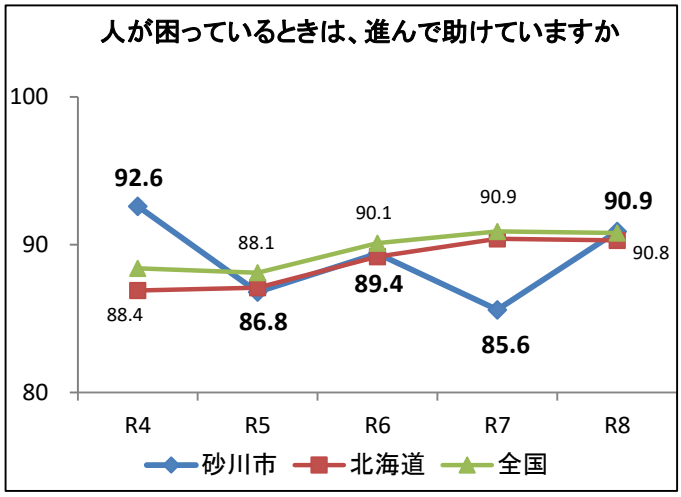




「自分にはよいところがある」と回答している生徒の割合は、昨年度を上回り全国平均と同程度であった。多様な他者との関わりや体験的な活動を通して、生徒が自らのよさや成長に気付き、自信をもって挑戦できる教育活動を引き続き充実させることが大切である。
「将来の夢や目標をもっている」と回答している生徒の割合は、昨年度を上回ったものの、全国平均をやや下回った。職場体験や外部人材を活用した学習、キャリア・パスポートによる継続的な振り返りを通して、生徒の職業観を育み、自らの生き方や将来について具体的に考えるキャリア教育を一層充実させる必要がある。

２　規範意識に関する生徒の状況

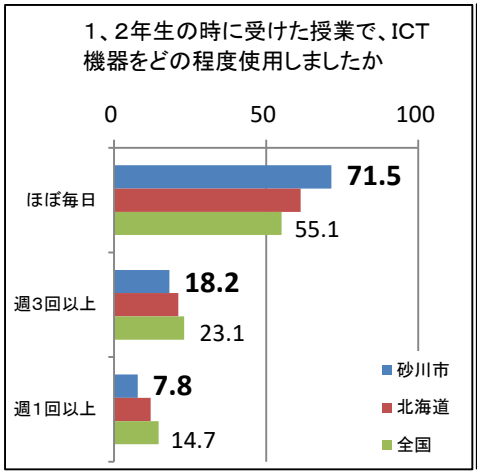


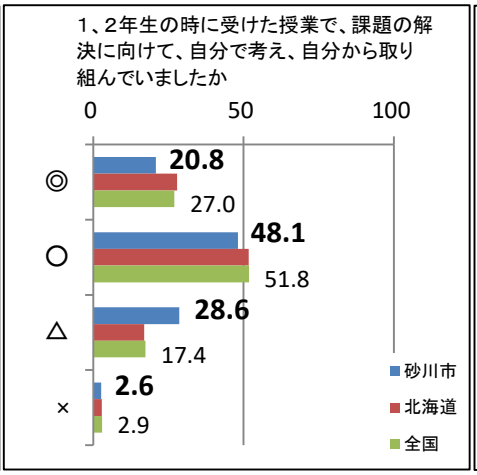


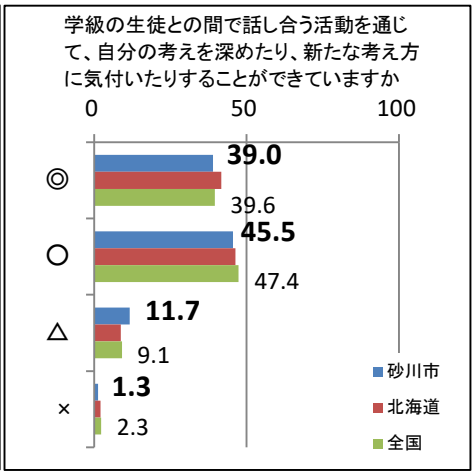
全ての生徒が「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」と回答している。引き続き、いじめを許さない意識を確かな行動につなげるとともに、生徒が互いの個性や多様性を尊重し、安心して生活できる集団づくりを進めることが重要である。
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した生徒の割合は昨年度を上回り、全国平均と同程度であった。道徳科や学級活動、児童生徒会活動等を通して、相手の立場や状況を考え、互いに助け合い、支え合いながら行動する態度を引き続き育成することが大切である。

3 学習に関する生徒の状況

（1） ICT機器の活用と主体的、対話的で深い学びの実現

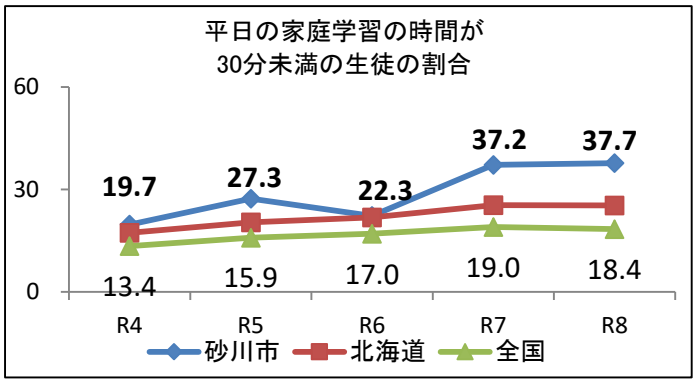


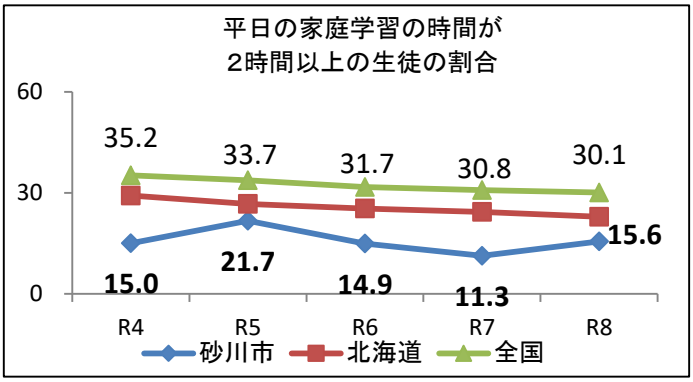


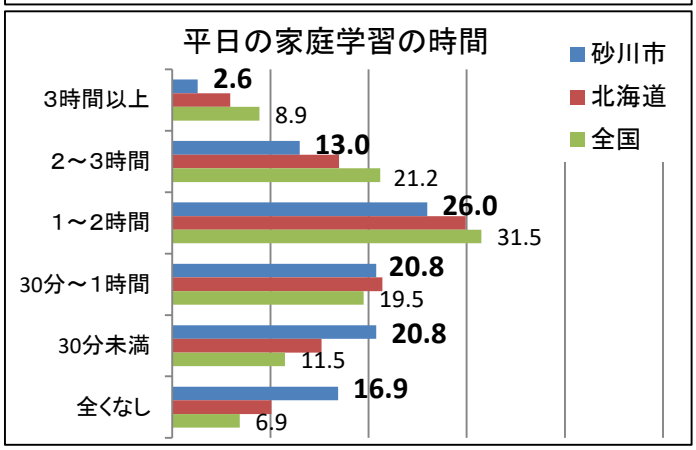


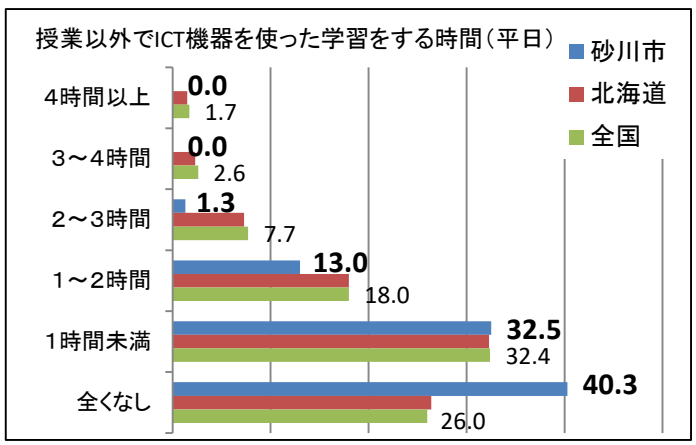
「ICT機器をほぼ毎日活用している」と回答している生徒の割合は、全国平均を大きく上回っており、各教科等における日常的な端末活用が進んでいることがうかがえる。今後は、個々の学習状況に応じた課題への取組や、情報の収集・整理、考えの共有、振り返りなど、主体的・対話的で深い学びにつながる効果的な活用を一層進める必要がある。
「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答している生徒の割合は、全国平均を下回った。生徒が課題解決への見通しをもち、学習方法を選択・調整しながら粘り強く取り組めるよう、課題設定や個人思考、振り返りの在り方を工夫する必要がある。
「話し合い活動を通して自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答している生徒の割合は、全国平均をやや下回った。考えを伝え合うことに加え、他者の意見と比較・関連付けながら自分の考えを再構成する活動を充実させ、対話の質を高めていくことが重要である。

（2） 家庭での学習状況









平日の家庭学習時間が30分未満の生徒の割合は、昨年度より増加し、全国平均を上回った。一方、2時間以上学習している生徒の割合は、昨年度より増加したものの、全国平均を下回った。時間別では「1時間～2時間未満」の割合が最も高いが、「全くしない」と回答した生徒も多いことから、家庭で学習に取り組む時間の確保が課題である。保護者との連携のもと、家庭における生活習慣を見直すとともに、生徒が自ら学習計画を立て、継続的に家庭学習に取り組むことができるよう指導する必要がある。
授業以外でICT機器を使って学習する時間は「全くなし」の割合が最も高かった。端末の持ち帰りやAIドリル等を効果的に活用し、生徒が自らの理解度や課題に応じて学習内容を選択するなど、家庭における個別最適な学びにつなげることが大切である。